

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	GreenApple調布ヶ丘		
○保護者評価実施期間	令和7年 5月 1日		～ 令和8年 4月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	29人	(回答者数) 18人
○従業者評価実施期間	令和7年 5月 1日		～ 令和8年 4月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7人	(回答者数) 7人
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 4月 30日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用者が安心安全を感じられる支援	一人ひとりの思いを受け止めた支援が提供できるよう、適宜、個別対話の時間を設けている。プログラムでは、利用者ごとのゴールを決め、頑張りを認め、励ましや賞賛を行うようにしている。	常に新しい利用者の状況や思い、対応方法（有効な声掛け・クールダウンの方法など）をスピーディーに職員で共有する。
2	利用者の特性に合わせた活動や教材の提供	利用者の発達段階や将来必要なスキル、保護者の希望などを踏まえた活動や教材の提供を行い、スモールステップで取り組んでいる。	社員一人一人が児童発達についての理解を深めたり、教材や活動のレパートリーを増やしたりするための研修などを受けるなどの機会を設ける。児童の様子の変化や成長に気付けるようにアンテナを高くして教材作りや活動に活かせるようにする。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	広範囲の送迎エリアおよび、多数の学校へのお迎え対応による業務量の増加	利用人数に余裕があった頃に、広い地域からの受け入れを行っていた。現状は利用人数が定員に達しているため、送迎業務にかかる時間が多くなっている。	送迎が可能な学校を明確にし、数年先までの送迎エリアを予測しながら新規契約を勧める。
2	当日の振り返りをする時間が持たにくい。	送迎エリアが広いことで自宅送りに時間を要し、事業所に戻る時間が勤務終了時刻になってしまう。	長期的に送迎エリアの調整を行っていく。翌朝のミーティングにて情報共有等を行っている。

事業所名 Greenapple調布ヶ丘

公表日 令和8年 5月 25日

利用児童数 29

回収数 18人

	チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	17			1		各活動に集中しやすいようなレイアウトを行い、限られたスペースを有効利用できるような工夫をしています。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	17			1		人員配置基準に準じた職員配置を行っています。
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	16	1		1		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間になっていると思いますか。	17			1		日常の清掃と消毒・換気を実施しています。
適切 な 支 援 の 提 供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	18					
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	18					
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	18				面談では、伝えたい事を言語化していた だき、すばらしいと思いました。	今後も、ゆっくりお話しができる面談の 時間を大切に、お子様の目標や成長を 細かく共有させていただきます。
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	17			1		保護者との面談とアセスメントをもと に、一人ひとりの状況や課題に応じた計 画作成を行っています。
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	18					
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	18					
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会がありますか。	8		1	9	・合同活動がとても楽しいようです。 ・他事業所との合同活動がある。	学童クラブや児童館での交流の場を特別 設けていませんが、当法人の他事業所と の合同活動にて、他地域の子どもたちと 関わることができています。
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	18					
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	18					
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	10	1		7		研修会等は行っていませんが、保護者様 からのご相談へは、ペアレントトレー ニングに基づいた助言等を行っています。
	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	18					
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	18					
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	18					
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	9		1	8	・保護者会は参加してみてもよかった。 ・保護者会に出る機会がなかった。	保護者会では、子どもたちの日頃の様子 をお伝えしたり、保護者同士の交流の場 として、年1回の開催をしております。 たくさん保護者の方々にご参加いただ ければと思います。
	19 子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	16			2		より迅速目つきき細かい対応に努めて いきます。
20 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	18						

	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	16			2		毎月、通信を発行配布し、ホームページやSNSで定期的に情報発信をしています。自己評価結果はホームページにて公表しています。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	18					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	12			6		事業所内にて常時閲覧いただけるになっています。また、ホームページへ掲載もしております。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	12			6		5月と11月に避難訓練を実施しており、通信やホームページにて様子を発信しています。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	17		1			
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	16			2		該当事案が発生した際には、迅速かつ丁寧な説明を心がけています。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	18					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	18					
	29	事業所の支援に満足していますか。	18					

事業所名	Greenapple調布ヶ丘		公表日	令和8年 5 月 25 日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	1	年齢の高い児童が多く通所する日にスペースの狭さを感じる。適宜、お散歩に行くなどの対応を行っている。	限られたスペースのため、活動内容に合わせて間仕切り等を行う。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6	1		・人員配置基準は満たしているものの、個別対応が必要な利用児童が複数通所する日には、他児童への支援を公平に行うためにも、現状よりも職員数が必要。 ・毎年4月に新規児童の受け入れがあり、特にサポートが必要となる時期なため、職員の人数が必要。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7		整理整頓された状態で、過ごしやすい環境づくりを心掛けている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7		個別対話やクールダウンが必要な際に、相談室や職員室、パーティションにてスペースを確保して対応するようにしている。	相談室が着替えや既に個別対応にて使用している際に落ち着いた空間の確保が難しいため、別に使用できる個室があるとよい。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	7			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		職員からの意見に迅速に対応しており、全職員の業務改善意識が高い。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	3		現在は第三者評価を行っていない。今後は必要に応じて実施し、業務改善に繋げていきたい。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7			
適切な支援の提...	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7		個々のニーズや特性に合わせた支援内容を職員間で日々共有できている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7		具体的な活動と支援内容が組み込まれた計画であるため、日々の支援において意識して取り組むことができている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7		各児童の課題や興味があることを考慮しつつ、皆が参加しやすい活動プログラムの考案を意識して行っている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7		課外活動だけでなく、日々のショートプログラムにおいても趣向を凝らし、子どもたちが飽きずに楽しく参加できるよう活動の提供に努めている。	

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7		日々の支援ミーティングは全職員が参加し、支援の留意点や担当などを丁寧に確認している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4	3	支援後は送迎の関係で時間が取れないことが多いため、翌日に行っている。その他、申し送りノートにて、常に最新の情報の共有ができるよう取り組んでいる。	支援後のミーティング時間を確保するため、長期的に送迎範囲を調整していく必要がある。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	1		
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	6	1		
関係機関や保護者との連携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定を育てるための支援を行っているか。	7		自己決定を含めた個々の自立に向けた支援の提供を、法人理念を踏まえ、全職員が取り組んでいる。	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	2	4		就学前の情報は保護者が主に保護者から得ているため、児童発達支援事業所等と連携し、事前に詳細な情報が得られるとよい。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5	1		卒業生が少なく、就労先へ情報共有を行った件数が少ない。次年度以降は取り組んでいきたい。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	4	2		
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	2	4		地域の公園は利用はしているが、意図的な交流の場は設けていない。法人内の別事業所との合同活動を行うことで、他地域のこども同士での関わりの機会を設けている。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	2	4		
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7			
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	1		ペアレントトレーニングに基いた相談援助を行っているが、研修の機会を設けていない。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7			

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6		保護者会にて、保護者同士の交流が持てるよう座談会を設けている。	きょうだい同士の交流の機会は設けていないが、今後はニーズを捉えながら実施を検討したい。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	7			
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7			
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	1	ハロウィンイベントの際に、近隣のお店の方が協力してくださっている。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	7		契約時のアセスメントにて聞き取りを行っている。利用途中で服薬の増量・変更があった際はお知らせいただき、職員間で共有を行っている。	てんかん・重度のアレルギー以外の情報を全職員で把握する。必要な対応方法についても全職員が対応できるよう確認する。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		安全計画に基づき、研修や訓練を実施した上で、支援を行っている。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6		安全計画を策定し、定期的な研修と訓練を実施している。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7			
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7				